

総務産業委員会報告書

平成27年12月16日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成27年12月16日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第143号 備前市防災行政無線施設（デジタル移動系）整備工事の請負契約締結について	原案可決	なし

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第143号の審査	2
閉会	7

総務産業委員会記録

招集日時	平成27年12月16日(水)	本会議休憩中	
開議・閉議	午前9時39分	開会 ~	午前10時05分 閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第6回定例会)の開催	
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長 川崎輝通
	委員	山本恒道	尾川直行
		掛谷 繁	西上徳一
		石原和人	
欠席委員		なし	
遅参委員		なし	
早退委員		なし	
列席者等	議長	田口健作	
	委員外議員	なし	
	紹介議員	なし	
	参考人	なし	
説明員	市長室長	有吉隆之	危機管理課長 大岩伸喜
傍聴者	議員	守井秀龍	
	報道関係	なし	
	一般傍聴	なし	
審査記録	次のとおり		

午前9時39分 開会

○**田原委員長** ただいまの出席は全員です。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開きます。

議案第143号備前市防災行政無線施設（デジタル移動系）整備工事の請負契約締結についてを議題といたします。

補足説明がありますか。

○**有吉市長室長** 説明は特にはないですが、一応議案に資料を添付させていただいています。6月の予算決算審査委員会に出したものと中身は一緒で、議案の関係で小さい図面ですが、同じ図面になっています。

○**田原委員長** それでは、委員の皆さんから質疑をお受けします。

○**掛谷委員** 総務産業委員会が12月7日に開かれたが、これがきょう出されたということが気になりますが、どういう理由で、もう少し早く出されてもいいと思いますが、まず1点、お伺いします。

○**大岩危機管理課長** 初日提出を予定して準備を進めていましたが、工事箇所への進入路の協議にちょっと時間がかかりましたので、工事入札が11月25日となりました。仮契約の締結がそれから14日以内ということで、12月7日に契約を締結したので、本日の議案提出となりました。

○**掛谷委員** 主要施設の構成、一番左の下ですね、これについて、移動局（車載型）20局、移動局（携帯型）126局の内訳はどうでしたか。

○**大岩危機管理課長** 移動局の車載型については市の公用車です。移動局の携帯型については、126の内訳はまだ詳細には決めていませんが、消防団が21分団で約20、幹部の方、市役所の災対本部用、あと地区の地区長に渡す予定と考えています。

○**掛谷委員** これは備前市の防災行政無線、これは東備消防との連携があるわけですが、あくまでも備前市だけでやる。たしかあれは和気も含めた、そういうトータルの分で、備前市はこれだけ、関係ないわけですが、和気町は幾らで、全部で総額幾らになりますか。

○**大岩危機管理課長** 詳細な金額はわかりませんが、東備消防の事業費が約5億6,000万円、和気町5億5,000万円、うちが今申し上げた6億4,000万円になっています。

○**尾川委員** 入札では辞退が2つということですが、2社辞退して、1社だけで落札云々ということはおかしいことはないわけですか。

○**大岩危機管理課長** この入札については、電子入札ですので、入札者が当日会場に来て札を入れるという入札ではないので、電子入札であれば成立するというので成立したものです。

○**尾川委員** 電子入札だろうが、持ってきての入札だろうが、1社だけで落札というのはおかしいのではないかという話です。辞退していて、全然競争できていないわけでしょう。競争入札ではないのか、これは。

○**有吉市長室長** 委員のおっしゃることは、私も最初そう思ったわけですが、やはりこちらへ来

とする入札と電子入札は違い、来られてやる入札でしたら、辞退しているのがもうその場でわかるわけです。1社の方しか来てないので、競争の原理が一切働かないということです。ただ、電子入札の場合は、今課長が言ったように、辞退されたということ自体がわからないので競争原理は働いているということなので、入札を行って、予定価格に入っていたので落札ということになったということで、契約管財課のほうで確認もしています。

○尾川委員 和気町が5.5億円、東備消防が5.6億円、この会社は皆一緒なのか。

○大岩危機管理課長 東備消防組合が協和テクノロジズだったという気がします。ちょっと記憶が確かでないので……。

○田原委員長 それぞれ別だということ。

○大岩危機管理課長 和気町も東備消防と一緒にだったと思います。

○田原委員長 東備消防と和気町とは一緒。備前市だけは違う業者ということですね。

○尾川委員 一緒でなくても、今ごろのことですから連携はできると思いますが、備前市内だけの何か私の記憶ではパナソニックがいいと聞いています。そのあたりで備前市内での問題というのはないわけですか。

○大岩危機管理課長 この業者3社ですが、国内で移動系の業者ですけど、その後の同報系、拡声放送ができる業者というのがこの3社になってきます、メーカー側が。そういうことで、260メガヘルツ帯の同報系と移動系ができる業者というのがこの3社ということで、この3社を選定しました。

○尾川委員 主要施設の構成では中継局が5局になっていますが、図面上では4つと思いますが、その辺はどんなですか。

○大岩危機管理課長 中継局といいますのが、吉永が盆地であり、一応市のインターネットで結び、ここも中継局ということで、鉄塔の4つと足して5局ということになっています。

○尾川委員 半固定局の16局というのは、どこどこですか。

○大岩危機管理課長 今の設計上では、日生総合支所、吉永総合支所、三石出張所、神根出張所、三国出張所、東備消防組合本部、坂根分庁舎、西鶴山公民館、香登公民館、伊部公民館、伊里公民館、東鶴山公民館、寒河コミュニティセンター、頭島総合センター、大多府会館、西小学校鴻島分校ということで考えています。

前回、尾川委員から御指摘があった片上の市民センターの半固定局については、その業者にお聞きしたところできるということなので、その辺も考えて今後設計を考えていきたいと思えます。

○山本（恒）委員 これNECはとても有名ですが、これは日本無線というところへ入っているわけ。

○大岩危機管理課長 NECは移動系はありますが、同報系はつくっていないということで、今回の業者選定からは指名委員会を外させていただいたと。将来的な拡声器の拡声放送を考えての260メガヘルツ帯での一体利用を考えての業者選定となっています。

○山本（恒）委員 これは60年ごろだったら、NECがもうずっと上のほうへおりましたが、シェアというか、持っていた技術が。でも、NECはもう全然こしらえていないからこの中へ参加できなかったわけですか。

○大岩危機管理課長 そのとおりです。同報系をつくっていないということで、今回は業者の選定には入っていません。

○田原委員長 ちょっと休憩します。

午前9時50分 休憩

午前9時53分 再開

○田原委員長 再開いたします。

○掛谷委員 前に少しお伺いしましたが、移動系はいいですけれども、同報系については、外へ放送するというので、もう今の自治体では外でやるのはほとんど意味がないと。というのが、台風とか大雨とかでしたら、閉め切っていますし、もう放送なんか聞こえないわけです。それで、よく言われるのは、FMラジオはないので、室内への取り込みというか、聞けるというのがこの何メガ帯だったか、126メガだったかな、このところではそれができないというのを聞いていますが、それはもう不可能なわけですか。

○大岩危機管理課長 不可能ではございません。一応電波調査を、屋外拡声器を立てるところ、180カ所していますが、その屋外拡声塔にアンテナをつけて、別のアンテナがありますが、それをつけたら戸別受信機もつけられると聞いてはおります。

○掛谷委員 実はもう主流は外の放送ではなく、うちの中で聞けるというのが今の主流になってきています。ですから、今後、そのアンテナかな、をそれぞれの町内会ごとに1塔、町内会ごとかどうかわかりませんが、どの程度つければいいのかわかりませんが、それをしたら室内でもラジオで聞けるということであれば、今後投資が要りますが、そのほうが結局は安全・安心であるわけであって、今はもうこの話なので違いますが、そういうことが投資すればできるということで、どの程度のお金がかかるのかわかりませんよね、これからの話ですけど。

○大岩危機管理課長 機械の値段というのはまだ聞いていませんので、たしか数百万円と言われようたような……。

○掛谷委員 数百万円、その施設整備が。それ掛ける。

○大岩危機管理課長 180カ所、一応電波調査していますが、今スピーカーの種類もいろいろございますし、全部180カ所はできると思っていないので、主要な湾岸部だとか、今ある日生とか吉永が将来的には古くなっていくので、その辺も考えながら屋外拡声器の今後の整備については考えていきたいと思っています。

○川崎副委員長 私、日生で台風なんかのときには必要性を感じていますが、同時に葬儀のお知らせなんかあるわけです。もう観光シーズンなんかに、何々亡くなりましたということで大きな声でやるのが、これからの将来においていいのかどうかという点では、今吉永方式でやはり各戸にお知らせするというのが望ましく、大災害で大火事とか巨大台風で、もう全員に避難をさせ

なければならぬときには、その無線の必要性も残っているとは思いますが、日常的なちょっとしたささいな火事だとか、事故が起きたときというようなことは、やはり時代の流れは各戸に流す時代だから、掛谷委員が言われた方向が私は時代の流れとしては望ましいと思いながら、田舎でも外へ出ていることが多いような農村であればそういうことが必要でしょうが、日生の場合は、もう島というのは大多府と鴻島だけになりましたから、頭島は陸路だしね。各戸別にやる方向にして、大きな大災害のときだけ主要なメーンのところだけに大きなスピーカーで避難してくださいとかということで、もう少し単価を絞っていく方法というのはないのかな。

というのが、もうこれだけ一方で携帯と同時に今備前市はタブレットで基本的な情報というのはもう今消防団員、我々議員、町内会長を含めて情報は流れているわけでしょう。だから、もう少し合理化するなりして、あとはもう吉永方式がいいのではないのかなと。将来各戸をやめて大きな声で谷間谷間でスピーカーで流すことが望ましいのかというのは若干疑問を感じているし、戸別のほうが安くつかないのか。こういう中継局といえば、これ全部自家発電か電線を、熊山なんかはすごく高いところまで、どこにあるのか知りませんが、電線を引っ張って、その維持管理だとか何とか、実際どんなですか、中継局は中電の電気が行っているのか、それとも自家発電で稼働するようになっていますか。

○大岩危機管理課長 中国電力の電気が行っています。停電時には、一応中継局は48時間以上の発電機でもつという設計にしています。

○川崎副委員長 ですから、そういう状況のときに各戸にしたほうが人命を守る上では私は避難の徹底というか、警戒の徹底とか、そういうこともより高齢者で耳が遠い人は、外でわあわあ何か言ようるわということよりも、もう自動的に何かスイッチが入って緊急通報とかという形を検討してみてもどうかということと、そのほうが何か素人目では安くつくのではないかと、こんな大きな中継局をいろいろなところにつくって自家発電までしないと電波が通じないようなやり方がいいのかと感ずるわけですが、いかがですか。

○大岩危機管理課長 今回、東備消防が先行的に移動系260メガヘルツ帯で国庫補助金がつきましたので、連携市町村でそれをつくということを知りましたので、長年備前市が移動系、吉永、日生と備前が一体になっていなく統合できるということで、260メガヘルツ帯での移動系を先に手を上げさせていただいて、補助金が今の段階で内示でしたら約2億6,000万円ついています。

それから、31年度までに合併特例債があるということで、約3億8,000万円を充ててこれをすると。260メガヘルツ帯でこの鉄塔を立てておけば、その260メガヘルツ帯を使って屋外拡声ができるし、さきほど申し上げた戸別受信機みたいな機械が入れられるという一応設計です。

○川崎副委員長 そういうことなら、そういう屋外での放送も災害のときに必要だと思いますが、日生だけなのかわかりませんが、葬儀のお知らせなどお知らせするわけですよ。2件も3件もあれば、観光シーズンなどは、本当に観光客にイメージダウンという感じを受けますので、屋

内でのそういう戸別にも電波を流すことができるということなら、ぜひそういうものを配備して、そういう日常的な行事の呼び込みはできたら屋外ではなく、戸別に流してもらおうほうが私はいいと思いますが、どんなですか、その辺の考え方は。やはり屋外で呼び込みみたいなことを自治体がやる必要があるのかな。

○大岩危機管理課長 皆さん、屋外にいるとは限らないわけですが、一番いい運用と、将来的には市の持ち出しがなるべく少なくなり、補助金が使えそうな形態で考えていきたいとは考えているわけですけど。

○川崎副委員長 屋外にもいるということですが、夜になれば、大体皆さん帰ってきているので、夜を中心にそういうものを流してもらって、夕方と朝9時か9時半ごろ流すわけですよ。朝は、特に葬儀なんかのことを、それから観光客に関係のないいろんな健康診断、催し、そういう放送もしているので、やはり少し内容によって戸別にお知らせしたほうが、直接かかわりのある市民にとってはプラスだと思いますので、そういう方向性もぜひ、吉永は事実やっているの、そこでの意見を聞きながら全体に広げるかどうかとも検討していただくことを要望しておきます。

○田原委員長 それより、雑音がもうひどいです、今のことより。それはこれで解決されるわけですか。

○大岩危機管理課長 雑音は屋外拡声器の話ですか。

○田原委員長 もうそりゃあ大変。

○大岩危機管理課長 将来的に屋外拡声をしたら……。

○田原委員長 将来的ですね。

○大岩危機管理課長 はい。

○田原委員長 わかりました。

〔「やったらすぐできるん」と呼ぶ者あり〕

〔「いや、まだしないの、これ工事しても、屋外」と呼ぶ者あり〕

○大岩危機管理課長 これは移動系なので……。

〔「まだ、今までどおりのアナログで」と呼ぶ者あり〕

これはあくまで移動系のトランシーバーだとか、車載だとか、避難所に置く、携帯ではないですが、ハンディーとかそういった関係の移動系という整備についてです。

○田原委員長 そういう整備ができた。

○大岩危機管理課長 この周波数を使って、将来的には同報系ができる。

○田原委員長 そういう意味です。

本案は、契約案件についてですので、ほかにはよろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結いたします。

これより議案第143号を採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第143号は原案のとおり可決されました。

以上で、総務産業委員会を閉会します。

御苦労さまでした。

午前10時05分 閉会